



ID: 1357

科目名	国際コミュニケーション論 【26年度生用】			コード			
英語表記	International communications theory						
担当教員名	李 文相			年度	平成26年度		
基準年次	2年次	開講期	前期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態			
授業概要							
日本とアジア地域、欧米のビジネス関係におけるコミュニケーション問題を考察する。授業では、国際的な視点からコミュニケーション上の異文化摩擦について探るとともに、類型論的に屈折語 (inflexional language) の英語と膠着語 (agglutinative language) の日本語や韓国語、孤立語 (isolating language) に分類される中国語の言語構造の違いによる発想やコミュニケーションのあり方についても触れる。							
到達目標							
アジア諸国と欧米のビジネス文化について言語的観点、言動様式などを手掛かりに考察を深める。							
授業計画							
第1回	授業の概要と進め方、異文化とコミュニケーションの関係について						
第2回	言語の類型論的比較(1)、屈折語と孤立語と膠着語の言語比較と発想について						
第3回	" (2) "						
第4回	漢字文化圏の漢字表記(1)、中国・日本・韓国の漢字を手がかりに						
第5回	" (2) "						
第6回	日本と韓国の言語習慣 (1)、日韓の言動様式の違いと異文化摩擦						
第7回	" (2)、ことわざなどを手掛かりに行動習慣について考える						
第8回	日・中・韓の言動様式(1)、それぞれの言語的特長と精神文化						
第9回	" (2) "						
第10回	日本・中国・韓国の対外観の違いはどのようにして生ずるのか						
第11回	" (2) 対外観の変化について						
第12回	対外観の克服とビジネス、異文化摩擦についての実例分析						
第13回	" (2) "						
第14回	アジア共同体ビジョン、研究論文を読む						
第15回	まとめとレポート対策、レポート作成に向けて準備						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
出席及び受講態度50点、レポート(2000字以上)50点			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				20	50		
授業外学習			テキスト、教材				
授業時に与えられたテーマに関して事前に調べてから授業にのぞみましょう。			プリントを配布する。				
参考書			受講生へのメッセージ				
授業時に提示する。			毎授業時に提出する小レポートも評価の対象です。				
キーワード							
異文化コミュニケーション、言語表現、屈折語、孤立語、膠着語、ビジネスモデル							